

南仏治安情報（9月分）

● テロ、反社会的活動、大規模デモ（邦人被害なし）

（1） コルシカ島コルス・デュ・シュッド県発生、ディスコ損壊事件

14日未明、Cargeseにあるクラブ・メッドの海水浴場にあるディスコ施設が何者かの襲撃を受け、建物が損壊する被害が発生した。同施設閉館中につき、怪我人はなかった。本件に関する犯行声明等は挙がっていない。

（2） マルセイユ・プロヴァンス空港におけるジハーディスト志願者の拘束

20日、マルセイユ・プロヴァンス空港にてトルコ行き航空機に乗り込もうとした10代の少女2名が国境警察に拘束された。両名はPACA州とサルトル県出身でシリア行きを図っていた模様であり、それぞれ家族から捜索願が出されていた。少女らは互いに面識がなかったとのことで、聖戦リクルーターの介在が疑われる。

（3） アルジェリア発生、ニース近郊在住者の誘拐・殺人事件

21日、ニース近郊在住でアルジェリア旅行中の仏人男性（55歳）が、「イスラム国」への支持を表明しているイスラム過激派武装組織に誘拐された。犯人側はメディアを通じて「イスラム国」に対する軍事作戦を停止するよう仏政府に要求し、その後男性を殺害した。

（4） マルセイユ発生、トルコから移送を受けた聖戦士3名の受け入れミス

23日、トルコで身柄拘束されパリに移送される予定の仏人ジハーディスト3名が、当局同士の連絡ミスによりパリではなくマルセイユ行き航空機に搭乗し、そのまま自由に仏帰国を果たすという珍事が発生した。搬送先とされていたパリ・オリリー空港には警官隊が多数配備されていたが、マルセイユ・プロヴァンス空港には誰もおらず、聖戦士3名は不思議に思いながらもマルセイユ市街地へと向かったという。後日、この3名は当局に自ら出頭した。なお、この3名のうち1名は、「モハメッド・メラ」の義兄であった。

（5） ニース空港における、シリア帰還兵の身柄拘束

26日、トルコからニース空港に到着した未成年の男が警察に身柄を拘束された。この男はシリア又はイラクから帰還したジハーディストであるとのこと。当局によると、シリア帰還兵である仏人はこれまで120名に上るとのことである。

● 殺人（邦人被害なし）

（1） BDR県ノーヴ発生、遺体処分を図ったとみられる殺人事件

4日夕方、農夫が路上で男性の遺体を発見した。通報を受けた憲兵隊が直ちに臨場、実況見分を開始したところ、遺体の脇にのこぎりが遺留されており、同のこぎりで遺体の首筋を切断しようとした痕跡が認められたことから、殺人事件とみて捜査を開始した。

（2） エロー県 Marsillargues 発生、女性殺害事件

5日午前中、ルネル運河に女性の遺体が浮かんでいるのを通行人が発見した。女性は30代とみられ、裸の状態であった。身元捜査の結果、被害者がモンペリエから失踪していたアルバニア系売春婦の女性と判明した。警察は被害者が何らかのト

ラブルに巻き込まれ殺害されたとみて捜査を進めている。

(3) コルシカ島レッザ発生、尊属殺人事件

6日夕方、アジャクシオから50km離れたレッザにて50代の男性が至近距離から猟銃で頭部を打ち抜かれ、間もなく死亡した。犯人は被害者の息子で、家族間の揉め事が原因であった由。

(4) トゥールーズ発生、過去の因縁が原因とみられる殺人事件

7日早朝、ペリゴール通り上で21歳の男性が刃物で大腿部等を数回刺され、搬送先の病院で亡くなった。犯人は過去にナイトクラブ内で被害者と喧嘩を起こした男であった。

(5) アルプ・ド・オート・プロヴァンス県ヴァル・ド・デュランス発生、監禁・強盗・殺人事件

16日深夜から17日未明にかけて、シストロンから数km離れた村外れの一軒家に強盗団数名が押し入り、一家3人を監禁した。抵抗した父親は犯人らの返り討ちに遭い、後刻死亡した。強盗団は宝石類を奪って逃走。憲兵隊によると本件犯行は周到に計画されたものであり、一家が外部に助けを求められないよう電話線を切断された跡などが見つかったという。

(6) ニース発生、ポルトガル人に対する殺人事件及び傷害事件

25日朝方、ポルトガル人男性(27歳)がムーラン地区のエレベータ内で何者かに刺殺された。

この事件発生の数時間前には、別のポルトガル人(25歳)が何者かに銃撃される事件も発生しており、警察はこの2件につき捜査を開始した。そしてその捜査の中で、銃撃を受けた男性が偽名を用いており、薬物犯罪で収監される予定の指名手配者であることが判明し、取り急ぎこの男を逮捕した。しかし本件発生原因及び2つの事件の関連性については未だ明らかになっていない。

● 強盗(邦人被害なし)

(1) エクサン・プロヴァンス発生、麻酔薬強盗事件

8日夜、セロニー通りにある動物病院で、診療時間終了直前にやって来た若者2名が獣医の女性をナイフで脅し付け、ケタミンを奪い逃走するという事件が発生した。ケタミンは麻酔として使用される薬品だが、麻薬のような効果も持つことから、薬物常習者の犯行とみて警察が捜査を進めている。

(2) マルセイユで頻発する、高級腕時計強奪事件

15日夜、14区ポール・コクス通りにある歯科医院内に強盗が押し入った。この時待合室内にはまだ患者が数名おり、被害者である医師も施術中であった。犯人はけん銃で居合わせた人々を脅すと、歯科医が身に着けているカルティエ製腕時計(5,000ユーロ相当)を奪い取って逃走した。犯人が現金等を一切要求していないことから、警察は本件犯人を「最近マルセイユで頻発している腕時計強盗犯」と睨んで捜査を進めている。この犯人のターゲットはロレックスなどの高級腕時計のみで、同様の被害が9月1日に15区内で、8月19日と6月24日に11区内で発生している。

(3) マルセイユ発生、ファスト・フード店を狙った強盗事件

20日夜、14区カネ地区にあるマクドナルド Sainte-Marthe 通り店に覆面をした3人組の武装強盗が現れ、閉店作業中の店員を脅し付け売上金 15,000 ユーロを奪って逃走した。

(4) モンペリエ発生、侵入強盗事件

24日、3人組の武装強盗が民家に押し入り、住人の男性とその妻に対して銃床で殴りつける等の暴力を振るい、現金と宝石類を奪って逃走した。

● 誘拐・立て籠もり

(1) ガール県 Caveirac 発生、誘拐未遂事件

23日朝方、登校途中の少年（10歳）が路上で何者かに誘拐されそうになる事件が発生した。少年の説明によると、いきなり現れた男に腕を引っ張られ連れて行かれそうになったが、何とか振り解いて逃げ出すことができたとのことであった。憲兵隊は本事件発生を重要視し、犯人追跡とともに子どもの登下校時の警戒活動を強化することとした。

● 傷害（邦人被害なし）

(1) モンペリエ発生、隣人トラブルが原因の重傷傷害事件

13日夜 Millenaire 地区において、隣人との口論に端を発し、40代男性が胸部を7回ナイフで刺される事件が発生した。被害者の息子も軽傷を負った。犯人は逮捕されたが、被害者は未だ緊急病棟で生死の境をさまよう状態にある。

● 薬物関連

(1) ガール県ポート・カマルグにおける、逃亡犯の逮捕

9日、逃走中のイタリア人男がポート・カマルグにて警察に逮捕された。この男は2012年にコカイン売買容疑で12年の禁固刑を宣告されたが、服役前に行方不明となっていたものであった。

● その他特異事件（邦人被害なし）

(1) BDR 県ジェムノス発生、銀行建物爆破事件

9日未明、LCL銀行のある建物が何者かに爆破され、外壁が吹き飛ばされ鉄骨が剥き出しになる被害を受けた。しかし銀行内のATM機はほとんど損傷しておらず、中の現金も無事であった。

(2) エロー県ラマル・レ・バン発生、洪水による死亡事故

17日夜から18日に掛けて大雨の影響で河川が氾濫し、河原付近でキャンプをしていた4名が死亡する他、近隣住民に甚大な被害を与える大規模な災害となった。

(3) オード県カルカソンヌ発生、自動車放火事件

23日未明、Viguiet 地区及び Ozanam 地区で路上駐車してあった乗用車が放火される事件が相次いで発生した。同地区では、昨年12月と本年5月にも同様の事件が発生している。

※ ここに掲載した事件は新聞等の公開情報を基にまとめておりますが、掲載した事件以外にも日々各種事件が発生していることを申し添えさせていただきます。